



新潟市急患診療センターだより

第 38 号 2025年 10月

第38号にあたって

朝晩が涼しくなると秋の訪れを感じるといわれていますが、猛暑も過ぎようやく秋の気配を感じる頃になりました。暖かい秋から一転、真冬が早く到来するともいわれていますので、健康に留意し、スポーツ、旅行、読書、芸術、食欲の秋を有意義に過ごしてください。インフルエンザも例年より早く流行期に入りそうなので、ワクチン接種を希望される方は早めに受けてください。今回は、病気の知識として、「腹痛」を取りあげました。Q&Aには、「带状疱疹ワクチンについて」を掲載しました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレス（QRコード）が掲載されていますのでご利用下さい。



10月22日夜から、院内薬局の場所が変わります！

来年の電子カルテ導入の準備として、薬局の場所が、受付隣から、放射線撮影室の隣に移ります。少し遠くなりますが、案内表示に従ってお進みください。

現在の／ 診療・混雑状況を 確認できます

内科 小児科 整形外科

スマホやパソコンから、内科・小児科・整形外科について、およその混雑状況が確認できるのでご利用ください。（ホームページ中のバナーをクリック）

病気の知識

腹痛

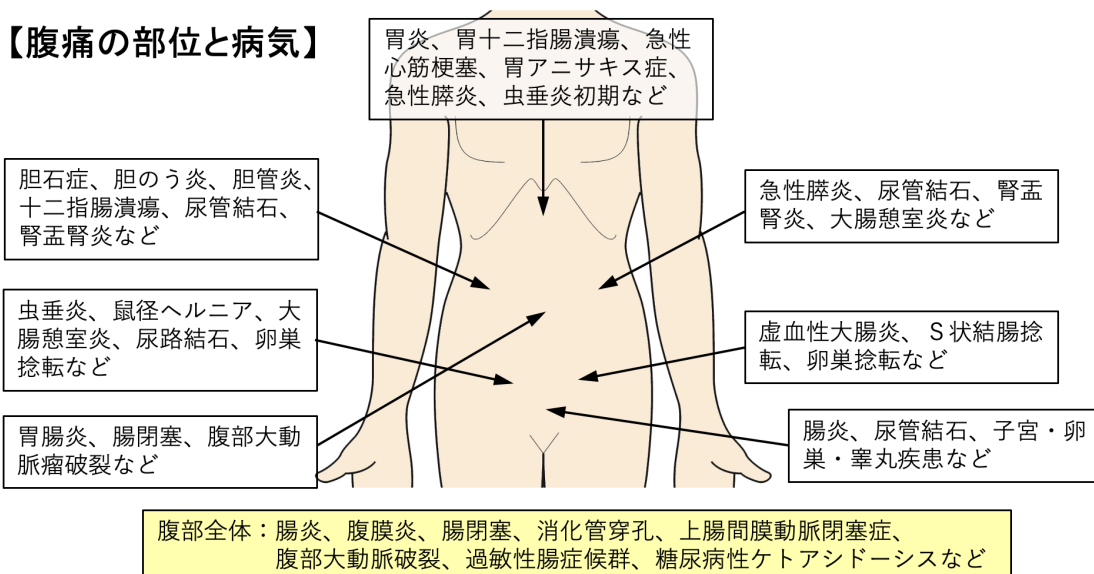
“原因は多くあるので、慎重に様子を見る必要があります！”

腹痛は日常生活でよく経験する症状です。一般的に救急外来を受診する患者さんの10%は「腹痛」といわれています。「腹痛」をきたす病気の種類が多いため、診断は必ずしも簡単ではありません。「腹痛」の原因は、単なる食べ過ぎによるものから生死にかかわる重大な病気まで多くあるので注意が必要です。

1. 腹痛の原因と部位

「腹痛」の原因は極めて多くあり、原因によって痛みの部位が多少異なります（右図）。注意すべきは、急性心筋梗塞などの心臓が原因のことがあることです。また、お腹の皮膚や筋肉が原因のこともあります。さらに、全身的な内科疾患も腹痛の原因となる場合があります。

【腹痛の部位と病気】



2. 「よくみられる腹痛」をきたす病気と症状

①急性虫垂炎	虫垂は右下腹部にあります。発症は“みぞおち”の「腹痛」で始まることが多くみられます。時間が経つと、右下腹部が痛くなるのが特徴です。おう吐もみられることがあります。
②腸閉塞	何らかの物理的な原因で腸が閉塞する場合を「腸閉塞」と呼びます。よくみられる原因は、腹部の手術後に腸がくっつくこと（癒着）により、腸管が閉塞するものです。その他、大腸がんによって、大腸が狭くなったりつまったりすることや、便がつまることで起きる場合もあります。腸管の中には、消化液と食物が流れていますが、その流れが障害された状態が腸閉塞です。腹痛、お腹がはる、吐き気、おう吐、排便・排ガスの停止などの症状が出ます
③胃・十二指腸潰瘍	一般的に、胃潰瘍では食後に“みぞおち”の痛みがみられ、十二指腸潰瘍ではお腹の空いている時に痛みがみられます。潰瘍部から出血すると、血を吐いたり（吐血）、黒色便（タール便）がでます。潰瘍が破れると強い痛みがみられ急性腹膜炎を起こします。
④胆石発作・胆のう炎	“みぞおち”から右上腹部の痛みがみられます。脂肪の多い食事後に痛みがみられることがあります。また、胆石が原因で胆のう炎が起ると、右上腹部痛、吐き気やおう吐、発熱がみられます。
⑤急性膵炎	上腹部の激痛発作で発症することが多く、背部痛もみられることがあります。吐き気やおう吐を伴うことがあります。原因としてはアルコールと胆石などがあり、重症化すると生命に関わることがあります。
⑥感染性腸炎	ノロウイルス、ロタウイルス、サルモネラ、カンピロバクター、病原性大腸菌などのウイルスや細菌が原因となりよくみられます。症状としては、「腹痛」と、頻回な下痢、おう吐、発熱などです。また、腸管出血性大腸菌（O157など）では血便がみられます。
⑦大腸憩室炎	憩室（けいしつ）とは、腸の一部が袋状に外側へ飛び出していることをいい、炎症を起こすと憩室炎となり「腹痛」がみられます。憩室が破れると急性腹膜炎を起こし、生命に関わる重篤な病状になることがあります。
⑧尿路結石	腎臓にできた結石が、尿管に流れ込むことで尿管が詰まり、尿の流れが悪くなることで起きます。わき腹から腰背部の激しい痛みが突然にみられます。痛みと同時に血尿がみられます。

3. 「緊急を要する腹痛」をきたす病気と症状

①急性心筋梗塞	急性心筋梗塞は、心臓を養う血管（冠動脈）が血の塊（血栓）により完全に詰まることにより突然発症します。急性心筋梗塞は胸痛で発症する以外に、「“みぞおち”の痛み」とし発症し、胃の病気と間違えられる場合があります。息苦しさ、意識障害、吐き気、冷や汗を伴う時は重症のことが多いとされています。
②腹部大動脈瘤破裂	ほとんどの腹部大動脈瘤は破裂するまで無症状です。激しい疼痛は切迫破裂の可能性があり緊急対応が必要です。完全に破裂した場合は、腹痛・腰痛、低血圧（出血性ショック）、意識消失などがみられ、死亡することが多くなります。
③上腸間膜動脈閉塞症	致死率の高い病気、腸管へ行く血管が詰まることにより発症します。「腹痛」は、突然の臍のまわりの激しい痛みで持続的です。おう吐や腹部の膨満、下痢、血便がみられることもあります。
④子宮外妊娠（異所性妊娠）	受精卵が子宮内膜ではなく、卵管や卵巣などに着床する疾患です。症状は、下腹部痛、性器出血などがみられます。着床部位からの出血多量によりショック状態になることがあります。
⑤絞扼性腸閉塞	絞扼（こうやく）とは締めつけるという意味で、腸が詰まると同時に腸が締めつけられて血流が悪くなり、腸の一部が死んでしまう（壊死：えし）ことがあります。原因としては、腸がねじれる腸捻転などがあり、緊急手術が必要となります。
⑥大腸穿孔	大腸憩室（けいしつ）や大腸癌などが原因で、大腸に穴があく（穿孔：せんこう）ことで起きます。突然の下腹部痛で始まり、破れた穴から便がもれて急性腹膜炎をきたし、重篤な敗血症性ショックになり危険になります。
⑦重症急性膵炎	上腹部の激痛、背部痛がみられ、吐き気やおう吐を伴うことがあります。重症になると循環不全、ショック状態になるので緊急の治療が必要です。
⑧急性胆管炎	胆管は肝臓から分泌された胆汁を十二指腸に運ぶ管で、胆管に感染が生じた状態が急性胆管炎です。急性胆管炎では、上腹部から右上腹部の痛み、発熱、黄疸がみられます。症状が進行すると、敗血症になり意識障害、ショック状態になることがあります。

自宅で様子をみる



- ・下痢、便秘、食べ過ぎなど原因が想像でき、程度の軽いものはお腹を休めて一旦様子を見てください。無理に食事をする必要はありません。水分補給は、常温や温めたものを少しずつ飲んでください。お腹を温めることも勧められます。

通常時間に病院へ



- ・耐えられる程度の痛みが続く場合は、諸検査が必要となることが多いので通常の時間帯に医療機関（内科、消化器内科）を受診してください。

至急病院へ



- ・耐えがたい痛みの場合、便が出にくい場合、食べられない場合、便の色の異常、黄疸、発熱などがある場合、お腹に振動が響く場合などは至急医療機関を受診してください。

救急車を



- ・痛みが極めて強い場合、苦しさを伴う場合、吐血または大量の黒色便のある場合などは救急車を要請してください。

【急な腹痛で急患診療センターを受診された方へ】

- ・急にお腹が痛くなり、受診された場合、受診時に症状が出そろっているとは限りません。例えば、発症間もない「みぞおち」の痛みで受診し「急性胃炎」と診断されても、時間が経って右下腹部が痛くなり、次の医療機関で「急性虫垂炎」の診断がつくことがあります。
- ・診察時に緊急入院や手術の可能性があるかと判断すれば、緊急に病院に転送しますが、そうでなければ、内服薬による対症療法を行い慎重に経過をみていただきます。
- ・病気の症状や所見は変化します。発症間もない場合に「軽症の腹痛」と診断されても、帰宅後具合が悪くなる場合もあります。
- ・そのため、帰宅時に「**受診後の注意事項について**」の文書を全員に渡しています。帰宅となった場合でも、症状が軽快しない時には、自宅で我慢せずに、早めに医療機関を再診（場合によっては救急車を依頼）してください。当センターへの再受診や電話相談も承ります。

Q & A（質問に答えて）

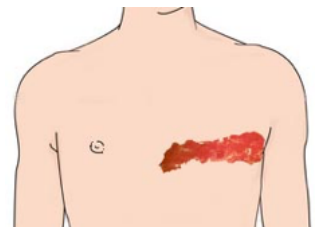
Q：带状疱疹ワクチンについて教えてください

A：带状疱疹は、体の左右いずれか片側に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点と小さな水ぶくれが带状にあらわれる病気です（右図）。そのため、带状疱疹と言われ、体のどの部位にでも生じます。高齢者に発症することが多く、重症化しやすいと言われています。

- ・合併症の一つに皮膚症状が治った後も痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすことがあります。
- ・近年、優れた効果のある带状疱疹ワクチンが開発され、令和7年4月1日から、高齢者带状疱疹ワクチンが予防接種法に基づく定期接種に加わりました。65歳以上の方などには、自治体からの補助がですが、補助額や年齢による補助対象年度については、ホームページなどで確認してください。

- ・带状疱疹ワクチンには生ワクチン（ビケン）、組換えワクチン（シングリックス）の2種類があります。生ワクチン（ビケン）は、1回の接種で済むこと、費用が安い（新潟市では補助ありで4,950円）などの利点がありますが、予防効果が組換えワクチン（シングリックス）より低く、効果の持続期間が短いというデメリットがあります。

組換えワクチン（シングリックス）は、高い予防効果（発症を約90%以上予防）があり、効果も10年近く続き、基礎疾患がある人や免疫が低下している人にも接種可能です。しかし、2回の接種が必要、費用が高い（新潟市では補助ありで1回18,150円）、注射部位の痛みなど副反応が出やすいというデメリットがあります。予防効果や長期的な効果を最も重視する方、基礎疾患がある人や免疫が低下している人は組換えワクチン（シングリックス）、1回の接種で済ませたい人や費用を抑えたい人は、生ワクチン（ビケン）が適しているといわれていますが、医師と相談してください。



診療時間



★土曜日の在宅当番医

【産婦人科】

午後2時～午後6時
(当番医はホームページ
「新潟市産婦人科医
会」に掲載されます)

当番医は、当センター
にもお問い合わせでき
ます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 (受付時間：午後7時～翌日午前6時30分)
	土曜	午後2時～翌日午前9時 (受付時間：午後2時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 (受付時間：午前9時～翌日午前6時30分)
整形外科	平日	午後7時～午後10時 (受付時間：午後7時～午後9時30分)
	土曜	午後3時～翌日午前9時 (受付時間：午後3時～翌日午前9時)
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 (受付時間：午前9時～午後9時30分)
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 (受付時間：午前9時～午後5時30分)



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に
市民に信頼される
救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

猛暑もようやく過ぎました。最近の異常気象は気候変動というより、地球温暖化による気候危機が未来のことではなく現実が始まったといわれています。このまま気温上昇が続くと、国土が浸水する島国、大規模な干ばつや洪水が世界各地でみられるでしょう。温暖化の原因に、安価で便利なものの大量生産・消費・大量廃棄があげられています。私たちにできることで、SDGsにつながる環境に配慮したエシカルマークの商品を手に入れたり、物を大切に長く使うことが次世代への責任です。

新潟市急患診療センター
ホームページ
<https://www.niigata-er.org>



新潟市医師会
救急疾患検索サイト
<https://www.niigata-er.org/search/>



小児救急ハンドブック
(新潟市)
URLは変更になることがあり
ます。



発行：一般社団法人 新潟市医師会
〒950-0914
新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号